本気・根気・元気

令和７年９月１日発行【第５号】
発行者：佐賀市立昭栄中学校
校長　川副　紀子

学校教育目標：夢に向かって　たくましく　挑戦する生徒の育成　－自律・協働－
生徒会スローガン：常識を覆せ！～Shoei of Students, by Students for Students～

夏休みからの切り替え

長い夏休みが終わり、２学期がスタートしました。８月 26 日（火）、27 日（水）には３年生が SAGA テストを受験し、１・２年生は 26 日（火）の学年登校日に課題をもって登校しました。校舎には久しぶりに子どもたちの元気な声が響き渡り、活気が戻ってきました。夏休み期間中も生徒たちは様々な場面で昭栄中学校の代表として力を発揮しました。中体連県大会、九州大会、全国大会での活躍、佐賀県吹奏楽コンクールでの素晴らしい演奏、その他、美術部が地域の小学生に対しポスター制作のアドバイスを行い、地域貢献を果たしました。また自由研究や課題に取り組む日々、それぞれに充実した日々を過ごしたようです。保護者の皆様には、中体連期間中、生徒たちに熱い声援を送ってくださりありがとうございました。夏休み明けはしばらく、日常を取り戻すために苦労します。まずは２週間ほどかけて、生活のリズムを戻すこと（繰り返しのリズムを整えること）を目標にしてみてください。テレビでは、その期間、脳が喜ぶようにどんな小さなことでもできたら、自分をほめることが大切だと言っていました。保護者の皆様におかれましては、夏休み後のお子様の様子をしっかりと見守っていただければと思います。

始業式の話「戦後80年を迎えて、これからの私たちが受け継ぐもの」

今年日本は終戦から 80 年を迎えました。また広島、長崎に原爆が投下されて 80 年です。80 年という歳月は記憶を風化させるには十分な年月です。ましてや、日本における戦争体験者は１割未満になっています。そのような中で私たちはこれから何をどう受け継いでいくべきでしょうか。私は平和について考えたとき、次の３つのことが浮かびました。

１つ目は、暴力の根絶です。戦争は相手を力で支配することであり、服従させることであり、相手の権利を奪うことです。国連憲章第１条は「人種、性、言語又は宗教による差別なく、すべての者のために人権及び基本的自由を尊重する」と規定しています。にもかかわらず今なお、世界中で己の正義を振りかざす暴力と侵略が続いています。非暴力と不服従を、生涯をかけて訴え貫き続けたインドの宗教家、政治指導者マハトマ・ガンディーはこのような言葉を残しています。「非暴力は成長の遅い植物です。目に見えないほどゆっくりと成長します。しかしその成長は確かなのです。」暴力根絶のために命を懸けて闘ったガンディーが亡くなって 77 年が経ちましたが、我々の周りから暴力が消えた日は一日たりともない、この現実を受け止めなければなりません。

２つ目は、事実を正しく知るということです。第二次世界大戦下において日本国民は確かな情報を得ることができず、情報は日本軍に統制されていました。何が本当か確かめたいと思っても確かめられません。今はどうでしょうか。様々な情報収集の手段を使って自分で調べることができます。たとえ個人レベルで事実かどうか確かめられずとも、事実かどうかわからないことを信用しないとか、事実かどうかわからないにも関わらず、興味本位で煽るような言動をしないとか、事実でないことを信用し、人を傷つけないとかはできます。正しく学ぶ、正しい知識を得ようとすることは歴史の過ちを繰り返さないことの第一歩です。

３つ目は、想像力をもつことです。失って気づくでは、あまりにも代償が大きすぎます。広島で行われた平和記念式典で広島県知事は、「核兵器を持つことが戦争の抑止につながることを声高に叫ぶ人たちがいる。しかし本当にそうなのか、抑止とはあくまでも頭の中で構成されたフィクションであり、これまでも破られてきた。ならば、核のない新たな安全保障の在り方を構築するために、頭脳と資源を集中することが今、われわれが力を入れるべきことだ。」と訴えました。皆さんの身近な世界、自分を取り巻く環境の平和を考えてみてください。自分もそして周りの人にとっても、平和とはどんな状態でしょうか。それを維持するためにどんなことが必要でしょうか。今、皆さんが考えるべきは自分の家族、仲間、学級、学校、部活動という世界の平和です。兵器をもつことが、皆さんの周りの人を幸せにするでしょうか。兵器をもつということは、使う可能性があるということ、相手を脅して何か無理を要求するのに便利だなと思うということ。そういう考え方が果たして平和を維持するのに本当に必要なのでしょうか。

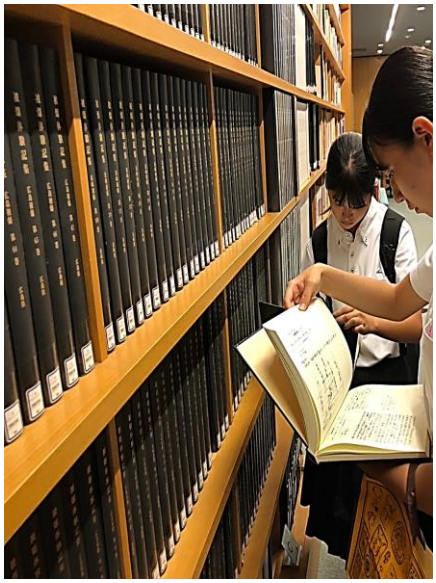
平和を守るために今の自分に何ができるのかを、自分なりに考えてほしいと思います。

山里中学校に実際に足を運び、目で見て、耳で聞き、心で感じたことを報告

始業式の後、生徒会が平和集会を行いました。８月に生徒会本部の二人が長崎市立山里中学校を実際に訪れ、平和部委員長さんたちから生徒会における平和への取組について、直接話を聞いてきました。今回の平和集会は、その報告と原爆の悲惨な体験について山里国民学校の子どもたちが残した手記が生徒会役員によって朗読されました。

長崎市の山王神社にあるクスノキです。写真のように穴があいています。この木は、原爆投下で幹に亀裂が入り枝葉も吹き飛ばされ、熱線で焼かれ一時は枯死寸前となりました。しかしその後、奇跡的に再び新芽が芽吹き次第に樹勢を盛り返して蘇り、復興へと向かう人たちの強い支えとなっています。戦後 80 年を迎えた今年の長崎の平和記念式典において合唱された曲『クスノキ』の題材にもなっています。

そのクスノキから１．５キロのとこにあり、平和公園や浦上天主堂のすぐそばにある長崎市立山里中学校を訪れました。爆心地から約９００ｍのところにあります。
みなさんも、小学校の修学旅行で山里小学校には、訪れた人もいると思います。まさに、原爆による被害を大きく被った場所に建っています。



原爆死没者追悼平和祈念館には、黒本と言われる被爆体験記があります。平成７年度に厚生省（当時）が実施した被爆者実態調査の際に収集した被爆体験記のうち、原爆死没者追悼平和祈念館での公開に同意があったものを複製し、収録されています。

発表者が昭栄中学校のみんなに伝えたいメッセージ

私たちは爆心地から最も近い中学校である山里中学校へ訪問し、平和部の生徒のみなさんと様々なことを話してきました。皆さんは「平和」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？戦争や原爆について思い浮かべた人が多いのではないでしょうか。山里中学校では日常生活のちょっとしたことから平和に結び付けて活動していました。例えば、平和部の活動としてアルミ缶・ペットボトルキャップの回収を行っているそうです。どの委員会でもできそうな活動ですが、これを平和部として活動しているのは、地域への貢献することで、平和な世の中に繋がると考えられているためです。このように、平和部では平和に繋がることを目的に活動を行っているそうです。平和部委員長は、自分の考えを言うときに、社会の授業での学習や今起きているニュースと結びつけて説明されることが、日頃から常に平和について考えながら生活されていると感じ、とても驚きました。また、自分達の知識や想いを「発信」していく活動に特に力を入れて活動されているなと感じました。県内だけでなく、県外・海外の方へのインタビューを通し、「発信」している活動を行っていると知り、私は「発信」することはとても大切だと思いました。戦争の話や、映像が苦手な人で目や耳を塞ぐ人もいるかもしれません。ですが、現実に起きた、「なまなましさ」を見て・聞いて、受け止めてください。今年、戦後８０年を迎え戦争を経験した方々も少なくなっています。だからこそ、私たちが「発信」し、繋げていかなければ、原爆の被害を受け、今も後遺症に苦しめられている方やつらい経験をした方、そして、亡くなってしまわれた方々の想いや経験がなかったものになってしまいます。平和部委員長は「発信」して途絶えさせないことが、山里中学校の生徒である自分の使命だと言っていました。私たち昭栄中学校でも、発信していきましょう。微力でも無力ではありません。どんな小さなことからでも行動してください。